

平成25年度

授業改善推進プラン【中学校】

- ①平成25年度北区立中学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②平成25年度第1～3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③平成25年度第2学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)結果の分析(様式3)
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式4)

東京都北区立王子桜中学校

平成25年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	各学年によっても多少違うが、全国平均よりは高い正答率のものが多い。今後はどの観点に力を入れるというのではなく、読み書きを中心とするすべての力を伸ばし、総合的な国語力が身につくよう指導していく。
社会	歴史分野は概ね満足できる成果をあげてきているので、地理や公民分野での小学校での定着が不十分なところを確認し、基礎・基本が定着するような指導計画をたてる必要がある。
数学	数量分野について定着が不十分な面があり、基礎部分の定着に課題がある。目標値を上回る項目も多い。学年が上がるごとに学力差が大きくなり、二分化の傾向がある。
理科	グラフの読み取り、数量からの推察などを苦手とする生徒が多い。そのことを視野に入れて基礎的な学力をつける必要がある。
英語	各学年で、ほぼ全ての観点において期待正答率や区の平均解答率を上回っている。条件英作文の正答率が期待正答率下回っているため、英作文の力を向上させるための継続的な指導が課題である。

本校の教育目標
[自主] 自ら考え正しく判断し行動する人 [創造] 先人に学び、未来の文化を創る人 [飛翔] 視野を広く、高き理想を目指す人

本校が生徒に育成したい力
1, 基礎基本の定着を図りながら、課題発見能力や課題解決能力を育成する。 2, 二学期制の中で新しい学びを探り、生徒一人一人にきめ細やかな教育を推進することで、学力の向上を図る。 3, 朝読書や新聞タイムを実施し、生徒の読み解く力を身に付けさせ、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養う。 4, 北区の小中一貫教育を推進し、小中のつながりと積み重ねを意識した指導を進め、高い自己肯定感を育てる。

学力向上にかかわる経営方針
教育先進都市北区の教育理念である「北区学校ファミリー構想」に基づき、地域や幼稚園・小学校・中学校が連携し、小中一貫教育を通して基礎・基本的な学力を身に付け、将来にわたって役に立つ「確かな学力」を育む教育を推進する。

校内における学力向上推進体制
平成24年度～26年度の北区教育委員会研究指定校として、「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」をテーマに掲げ、8つの教科・領域の分科会で授業研究や指導法の研究を推進する。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
二学期制の特色を生かし、授業時数を確保し、ゆとりある授業展開を図る。TTを推進し、個に応じた細やかな教育を推進していく。加えて、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境をつくり、明るく楽しい学校づくりを推進する。	「ノーチャイムによる学校生活」を通し、自ら考え正しく判断する自主性・主体性を育て、全教育活動の中で発揮させる。また、生徒の興味・関心・意欲を高める教材を開発し、基礎・基本の定着や自力解決型の授業など、工夫を図る。	幼小中一貫の王子桜中サブファミリーの研究の2年目として、昨年度の研究を発展させる。今年度中間発表に向けて、各教科で幼小中の接続を重視した授業研究やNIEを取り入れた授業の研究を進める。	教科ごとに、年度当初に年間指導計画・評価規準を作成し、それに基づき、きめ細かく生徒を評価し、評定していく。また、考査問題への観点の明記など、保護者・生徒へのわかりやすさに配慮する。	地域や企業の協力を得て、第1学年の職場訪問や第2学年の職場体験学習を実施する中で、勤労観や職業観を高めていく。また、町会・自治会との地域防災の実施や学校支援ボランティアの協力を得て、社会性豊かな生徒の育成を図る。

平成25年度 第1学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立王子桜中学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全体的にはほぼ満足できる結果である。特に文法・語句の知識、文章を読み取る、作文の力などは他のどの数値と比べてもかなり高い値になっている。ただ、話の内容を聞き取る力や漢字の力は、少しではあるが、全国や区の平均を下回る値も見られる。</p>	<p>どの観点も区の平均値は上回っている。特に書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能に関しては満足できる数値である。反面、国語への関心・意欲・態度と話す・聞く能力は課題が残る結果となっている。</p>	<p>内容、観点共に課題があるのは「話す・聞く能力」である。また、漢字を読んだり、書いたりする力も他の数値に比べると低めである。書く能力や読み取りの能力は思いの外高かったが、これらに関しては今後も一層伸ばしていかなければならない力である。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>前年度より目標値を上回っている項目が多く、全国正答率と同率の結果であった。聖徳太子や織田信長、豊臣秀吉などの人物、歴史資料の読み取りなどで高い正答率を示しているが、地理分野や中学公民につながる内容について、正答率が低かった。</p>	<p>「養殖」「国際連合」などの用語の正確な知識が十分定着していないことや、地理分野のグラフや資料を読み解く力や表現する力が十分身に付いていない傾向が見られた。</p>	<p>グラフや資料の読み取りについて、歴史分野は高い正答率が見られるが、地理分野や公民分野では下回る傾向がある。また歴史分野全般に全国平均を上回る正答率の項目が多いが、地理・公民分野では全国平均を下回る正答率の項目が多く見られた。</p>
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全体的に目標値と同等または上回っている項目が多い。しかし平面図形の合同、百分率、反比例については目標値を下回る結果となった。また、同一問題を対象とする平均正答率に関して、前年度や目標値、全国正答率を上回る結果となった。</p>	<p>どの観点も目標値を上回っている。面積と体積、単位量当たりの大きさ・平均、いろいろなグラフの読み取りに関して活用観点の思考・判断力が平均を上回っている。</p>	<p>数学的な考えや見方、思考力・判断力が身に付いている。一方、平面図形の合同、百分率、反比例については目標値を下回る結果となっていて、学習するには復習が必要である。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>前年度より目標値を上回っている項目が多く、全国正答率を上回る結果であった。特に「物の溶け方」「水溶液の性質」では、目標値や全国平均を上回った。だが、「電流の利用」は全国平均、区平均、目標値を下回っていた。</p>	<p>目標値を上回っている項目が多く、全国正答率を上回る結果であった。特に、実験・観察の技能と自然事象についての知識・理解において全国平均を上回っている。</p>	<p>化学分野において、目標値と全国平均を上回っている。実験・観察の技能や知識・理解において、全国平均を上回っている。だが、電流に関しては全国平均を下回った。科学的な思考・表現では、全国平均を上回っているが他の観点に比べ値が低めである。</p>

平成25年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
前年度より、目標値を上回っている項目が多い。特に、話し合いの内容を聞き取る問題では、正確さ・話題をとらえる力がある。ただし、文法・語句に関する知識については目標を下回る結果となった。	国語科への興味関心があり、話すこと・聞くことへの力があり、話を正しく聞き取り、話題をとらえて、自分の考えを、まとめる力がある。しかし、言語事項においては文法・語句について、特に、「単語」の理解を中心に学習に力を入れる必要がある。	聞く力・考える力は、身に付いてきている。言語事項における文法の指導に工夫が必要である。具体的には、言葉の単位を中心とした基礎事項の復習・問題練習の繰り返しである。学年生徒の興味・関心・意欲を生かした指導が必要である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
前年度は目標値を下回ったが、今年度は目標値を上回る結果となった。地理分野は全体的に目標値を上回り、特に「地球の姿をとらえる」「ヨーロッパ」は全国平均を上回った。一方、歴史分野は全項目、目標値を下回った。	1項目を除き目標値および区平均を上回ることができ、全国平均に対しては全項目上回る結果となった。特に、「資料活用の技術」が高い正答率となった。	前年度はほとんどの項目で目標値を下回る結果であったが、今年度は地理分野を中心に目標値を上回る結果となった。観点別では、ほとんどの項目で目標値を上回ることができているので、社会への関心を高める授業を実施することで、更に正答率アップを図る必要がある。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に目標値を上回り、特に「比例・反比例」や「平面図形」の分野では理解が深まったと思われる。資料の散らばりと代表値については他の分野より達成率が低いので、全体で時間をかけて指導する必要がある。学力差が大きくなり、二分化の傾向がある。	各観点で、目標値、区の平均を上回っているが、数学的な技能についてはもう少し、正答率を上げていきたい。基礎的な計算や計算法則などの理解に課題がある生徒が多い。	課題解決に向き合う姿勢ができつつあると思われる。そのためか活用の力が伸びてきている。反面、正の数・負の数、文字式などではあまり伸びが感じられない。日常的に反復練習の必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎問題の正答率が高いが、活用は低い。領域でみると「光と音の性質」、「火山活動と火成岩」の正答が低い。一方目標値の正答率が大変低い「水溶液」は18%以上目標値を上回り、「気体の発生と性質」「身の回りの物質とその性質」の正答率も高い。全体として、計算や作図で考える物理分野の理解度が低いことがわかる。	各観点で、目標値、区の平均を上回っているが、グラフの読み取り、計算から答えを導き出すなどで課題がある生徒が多い。科学的な思考力を伸ばしていきたい。	作図、計算などを特に苦手とするので、演習を行いながら学習を進めたい。物理分野、地学分野でよく出てくる内容であり、他の分野よりも丁寧に問題演習を行う必要がある。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
特に「リスニング」、「語形・語法の知識理解」、「様々な英文の読み取り」、「3文以上の英作文」に関しては区の平均を大きく上回っている。これはコミュニケーションを重視し、ペア等でパターンプラクティスを繰り返し実施してきた成果と思われる。	全ての観点で区、全国平均を上回っているが、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と、「表現の能力」が他の観点と比べて低い。したがって、進んで読む、書くなどの意識を高める指導をしていく必要がある。	「語彙の知識・理解」、「長文の読み取り」、「場面に応じて書く英作文」が若干、区の平均を下回っている。4技能の中でもさらに細かく目標を設定し指導をしていく必要がある。また、授業の中での時間配分に関して課題とされる点により比重を重く必要がある。

平成25年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に区や全国平均を上回っている。いつもは高得点の漢字の読みが今回は低かった。普段余り目にしない読みが出題されたからだと思われる。普段からたくさんの文章に触れる機会を持たせたい。読解力や文法力は着実に付いてきたようである。	基礎力や活用力ともに全国平均を大幅に上回っているが、北区の平均からすると活用力がやや劣っている。手紙の内容を正確に読み取り、それをもとに内容をまとめるといった活用力が弱い。手紙の書き方やグラフの読み取りなど、普段必要となる力を養う必要がある。	基礎的な発問に対する発問や知識はついてきたと思われるが、発展的な活用力についてはやや不十分である。あまり使われない語句や手紙の書き方やグラフの読み方などについては十分身に付いていない生徒がいる。普段の会話や新聞などに注意を払わせることが必要である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
近代の日本と世界を除いては、区や全国平均と比べて正答率が低くなっているが、特に日本の諸地域の領域においては、中部地方のみの出題で分析材料が不十分だが、北陸という区分名や中京工業地帯という基本的な用語に関する知識が定着されていなかった。	区や全国の正答率と比較すると、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能はほぼ同じくらいであるが、知識・理解の正答率が低く、左記以外にも荘園などの基本用語の知識が身につけていない生徒も多かった。	地理的分野の学習では、グラフなどの資料読み取りを授業の中で取り組んできたが、そのぶん、地名・名称などの知識定着の部分がおろそかになってしまった。歴史的分野では、中世についての理解や江戸の文化史が不十分であることがわかった。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区の平均と比較して、文字式計算、連立方程式、一次関数など、いわゆる数量分野について定着が不十分である。反対に、証明の分野では区の平均を上回っている。全体としては、基礎部分の定着に課題がある。	数学的な技能、数量や図形についての知識・理解の観点で特に課題がある。特に分数のある計算や基礎的な図形の公式を覚えることなどに課題のある生徒が多い。	基礎的な計算力と、中長期的な知識の定着に課題があることが、内容別結果の分析と観点別結果の分析から共通して読み取れる。日々の授業の中で反復した計算練習とスパイラル的な復習を意識して取り組んでいくことが必要である。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
化学変化、電流と磁界など1分野の内容は区平均を上回っているが動物のからだや気象など2分野では区平均を下回っている。全体として活用が下回っているのが課題である。	区平均と比べるとほぼ同じ正答率だが、全国平均をみるとすべての観点で下回ってしまっている。特に自然現象の意欲・関心・態度の正答率が低く、改善していく必要がある。	分野によってできる分野とそうでない分野に開きがある結果となった。特に計算の問題の正答率が低いことから、繰り返し問題演習を行い、振り返りの時間を増やし定着させる必要がある。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
リスニング、過去進行形、比較表現、長文の内容の把握、SVOOの文、形容詞的用法の不定詞、3文以上の英作文は力が付いている。しかし、対話の内容を聞き取る力、動名詞、as～asの文法理解、長文理解、天気はずねる文を書く力が定着していない。	理解する能力のうち、リスニング、知識・理解、表現する能力はほぼ力が付いている。長文を読み取り理解する能力、英作文を書き表現する能力、知識・理解の一部が定着していない。	リスニングの力は着いているが、長文の内容に関する質問に英語で答えることができない。知識・理解では一部、覚えていない部分がある。英作文では英文と資料の情報・条件をもとに、相手の意向に適切に応じることができない。また、正しい語順で書くこと、英語でたずねる文を書くことができないものがある。

平成25年度第2学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)結果の分析〔悉皆〕(様式3)

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>聞く力・漢字の読み方・説明文の読み取り、特に「比較・必要な情報を取り出す能力」の正答率が高い。ところが、漢字の書き取り・文法事項・指示語や接続語を適切に用いて、前の文章に続けていくつかに分けられた選択肢の文章を、組み合わせて完成させる高度な内容の問題に弱い。</p>	<p>今回の7番のように、興味の湧く題材での集中力を認める。今後も、興味のもてやすい教材を工夫しながら、読書や作文に親しませたい。聞くテストは、1年次より実施して、メモの取り方のコツをつかんでいる。漢字は、小テストなどで学力増進を図る。文法の総復習・作文指導など今後の補助学習とする。</p>	<p>漢字の書き取りに関しては、小学校5・6年生の総復習テストから始め、基礎から学び直させ、自信と興味を持たせて学力を身に付けさせる。文法に関しては、主述の関係と修飾・被修飾との区別の指導が効果的である。書く力においては、問題そのものが難解な内容であり、地道に作文指導を行い、具体的に該当部分の繰り返し学習を進めることが効果的である。</p>

社会

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>「関心・意欲・態度」を問う問題に対しての正答率は比較的高いが、「思考・判断・表現」及び「技能」を問う問題に対しては、かなり正答率が低い。特に、年表や資料から読み取る問題に対して正答率が低く、重要な語句の見出しや表中の事柄の関連付けの力が弱い。</p>	<p>必要な情報を正確に取り出す力に課題がある。指導において、目標を明確にさせた上で、文章や図表などから、その内容を丁寧に読み取らせ、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、取り出させたりするなどの指導の充実を図る必要がある。</p>	<p>グラフや図、年表や資料など、幅広く教材を利用し、そこから何を見い出せるか、または何を読み取ることができるかなど、平日頃の授業から自分で考える力を養う必要がある。また、自分の考えをまとめる力を育てるために、授業ごとに課題を明確にし、その課題に自分の考えを書く演習を繰り返し実施する。</p>

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>「関心・意欲・態度を問う問題」の正答率は比較的高いが、「思考・判断・表現」を図る問題の正答率が低い。特に説明を要する欄は誤答も多かったが、空欄が多数あり、生徒にとっては抵抗があるように見受けられた。作図については基本の作図の混乱がみられ、性質の理解が低い。</p>	<p>問題を読み解く力の向上を目指し、課題解決型の授業をより多く取り入れ、解決する力を伸ばしたい。順を追って考えを進め、説明する力を伸ばす必要がある。計算については反復練習をし、正確に解けるようにする必要がある。</p>	<p>・計算問題集を使い、反復練習を取り入れ、計算問題が確実に解けるようにする。 ・課題解決型の学習の中で、順を追って考え、説明する力を伸ばす。 ・グループ学習を取り入れ、小グループの中で自分の考えを説明し、人の考えを聞いて理解する力を伸ばす。 ・長期休業中の課題として、日常の事象から数学的な事象に目を向けさせたい。</p>

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>物理分野、数量的な内容を含む分野を苦手とする生徒が多く、基礎的な演習を必要とする。 また、問いにあった答えを書くことが不十分な生徒も多い。 地層の重なりなど、立体的な思考を必要とする設問を苦手とする生徒が多い。</p>	<p>作図、計算などを特に苦手とするので、演習を行いながら学習を進めたい。物理分野、地学分野でよく出てくる内容であり、他の分野よりも丁寧に問題演習を行う必要がある。</p>	<p>・基本的な事項の確認後、反復練習を行う。理解が難しい内容では、少人数グループ学習を取り入れ、相互交流を図りながら学習を進める機会を設ける。休み中の課題で反復練習を行う。定期考査前に質問教室を行う。</p>

英語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
<p>1, 2番のリスニング問題と、9番の英作文による「関心・意欲・態度」を測る問題の正答率はある程度高い。6番の過去形で表現する箇所ではstudyのyをilに変えてedをつけられない解答が非常に多かった。7番、10番、11番と長文問題に関しては、誤答が多く見られた。</p>	<p>再度語尾がyで終わる語の過去形や三単現のsの形を確認するなど、書くときの正確さを高める指導が必要である。また、長文を読むことに対して前向きに取り組むことができるように、多くの長文に触れていく必要がある。</p>	<p>・語彙テスト、語の活用テストを頻繁に実施。 ・授業中の帯活動としての語順を意識した英作文の実施。 ・生徒のレベルに応じた多読の実施。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>一人一人の生徒が国語に関心・意欲を持ち、積極的に学べるよう、授業の工夫をしていかなければならない。</p> <p>また漢字の読み書きを苦手とする生徒が多いので、繰り返し粘り強く指導し、漢字力の定着を図る必要がある。</p> <p>他に比べて正答率が低かった問い、話したり、聞き取ったりすることに関しては授業のなかでなるべく頻繁に取り入れるようにしたい。特にスピーチなどで自分を表現する力を身に付けさせることを目指していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりで毎時間10分程度の漢字学習をする。 ・漢字のテキストを使い、定期的に課題を出し、テストをしながら力の定着を図る。 ・テーマに基づいたスピーチを通し、自己表現力を身に付けさせる。適宜、聞き取りの練習も取り入れていく。 ・書く力を伸ばすため、様々な形で文章を書かせていく。書かせたものには朱筆を入れ、表現や文法のミスなども直していけるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストで合格点に達しなかった場合は、再テスト、再々テストを受けさせ、合格点を目指させる。 ・夏季休業中には読み取り中心のワークを課題とし、文章を読み取る力を伸ばしていく。 ・漢字検定を奨励し、校内でも年三回実施することで漢字学習への意欲を高める。 ・学年で百人一首大会を行い、古典にも興味を持たせる。 ・全校での朝読書やNIEを実施する。
2年	<p>全体的に学習意欲があり、基本的な国語科の知識が身につけている。特に、問題形式の授業は、大変熱心で、積極的に発言する生徒が多い。比べて、与えられた課題に対して、自分の考えを、よく考えてから発表する力がやや不足している。基礎的な漢字力においては、小学5・6年の読み、書き取りから、学習し直すことが効果的である。文法においては、言葉の単位の基本である・文章・段落・文・文節・単語の区別を付けさせてから、系統的に学ばせて、練習問題を繰り返し実施することが有効である。</p>	<p>授業の最初に、漢字の練習帳を用いて、基本的な読み・書き、応用問題、さらには、硬筆書写の文字力までも、繰り返し学習させ、継続することで、漢字力・書写力を身に付けさせる。古典教材については、有名な冒頭部分を暗誦させ、たうえで、筆記テストも実施して、国語科としての教養と学力を身に付けさせる。さらに、国語科への興味・関心を身に付けさせる。一定のテーマを与えて、自分の考えを発表する機会を設定して、考えたことを言葉として発表する習慣を身に付けさせるとともに、自分以外の人の考え方に学ぶ習慣を身に付けさせる。</p>	<p>小学校の漢字テスト(5年・6年)により生徒自らの漢字力の実態を知り、今後の向上の手助けとする。聞くテスト・朗読テストなどのそれぞれの力を試して、その特性を自覚させる。NIEの作文資料を毎週用意することで、学年全体の作文力の向上を図る。年間を通して、標語・俳句・短歌・作文コンクールなど校内・校外のコンクールに応募させることにより、視野を広めたり、自信を付けさせたり、国語科全体に興味・関心を持たせる。</p>
3年	<p>全体的に1年次から着実に力が付いていると思われる。漢字の書き取りが苦手だったので、10問書き取りテストを授業ごとに行った。関心も高くなり、50問テストなどは大変高得点が取れた。ただ普段から読書をしたり新聞を読むなどの文字に触れる機会に乏しい生徒にはなかなか読解力や漢字力、表現力が付かない。日頃からたくさんの文章に触れ、難しい漢字や分からない語句はその都度調べる習慣を付けさせたい。</p>	<p>読むことを伸ばすためにまず、何度も教科書を読ませる。黙読・音読・グループ読みなど抵抗がなくなるよう繰り返す。内容の読み取りに関しては発問に対する解答がずれないように注意して見ていく。</p> <p>また、作文に抵抗がないよう折に触れて字数を決めて感想や意見を書く場面を多く作る。さらにスピーチやグループ討論など、自分の意見を表現できるような時間を多く作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字10問テストは授業の最初に必ず行う。平均点を評価にも反映させることで意欲を出させる。また漢字検定も積極的に受験するよう促す。 ・教科書や新聞など、知識教養につながることを取り上げて読む時間を作り、感想や意見を書いたり話したりできる力を付ける。 ・都立の集団面接を考慮に入れて、グループでの討論やスピーチの時間を取り入れる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>地理分野においては、資料の読み取りや知識の定着を図る指導が十分成されてきていると思われる。が内容によってムラが見られる。また、基本的な知識の定着が不十分と思われる。</p> <p>歴史分野においては、資料の読み取りや知識の定着を図る指導が十分成されていると思われる。</p>	<p>地理分野において、資料の読み取りやグラフ、表などの作成などを授業に十分取り入れて、基本的な技能の習得を図る。</p> <p>歴史分野においては資料の読み取りと用語の定着を図るようなまとめや繰り返しの時間を取る。</p>	<p>教科書のまとめの章などを活用して、地理用語、歴史用語の知識の定着を図れるようにする。</p> <p>ワークシートなどを通して、グラフや地図、主題図の作成の練習を行い、また読み取る力の向上を図る。</p> <p>資料や地図などを活用して、説明したり、表現したりする授業を取り入れ、技能の習得を図る。</p>
2年	<p>歴史分野に関しては、基礎的・基本的な知識・理解が不足している。これは、生徒が興味関心を引く授業ができていない、学習課題を明確にし振り返りができる授業が行えていない、問題解決型授業が行えていないことが課題である。地理分野に関しては、問題解決型授業が不十分であり、さらに深めていく必要がある。</p>	<p>小学校の教科書を振り返らせるなど、興味関心をひく資料を数多く提示し身近なところから社会への関心を高める。また、電子教科書を活用したわかりやすい資料説明、生徒への積極的発問による問題解決型授業の実施、学習課題を明確にし授業の終わりに振り返りを実施、単元終了後の復習プリントを実施することにより、基礎的な知識理解の向上を図る。</p>	<p>単元の終了時に、ディスカッションやディベートを通して、その単元で学習した内容を自分のものにできるようにする。</p> <p>電子黒板を活用した小テストを実施し、効率的に復習ができるようにする。</p> <p>歴史分野では、1年次に学習した時代の大観を、時間を確保して実施する。</p>
3年	<p>地理的分野については、ワークシートを活用してのグラフの読み取りを中心とした授業を行ってきたので、資料の読み取りに関しては、よく取り組めた生徒が多かったが、知識理解を定着させることにおいては、授業の中での取り組みが不十分であった。歴史的分野においては、昨年度から新たに取り組んだ1時間ごとに行う「学習課題のまとめ」がまだ定着していない時期で、結果に表れなかった。</p>	<p>地理的分野に関しては、「地名・物産」を覚えさせる旧来の地理指導への批判から、教師側が地名などの知識定着に二の足を踏んだ所もあったので、小テストなどを活用して、基本的な地名や用語の定着を図っていく。歴史的分野においては、1時間ごとの「学習課題のまとめ」指導が生徒に定着しつつあるので、継続して取り組んでいく。</p>	<p>1時間ごとのまとめの時間を確保して、その時間に行った学習を生徒自身で振り返る活動を繰り返し行うことと、歴史的分野では、折に触れて過去の時代について振り返らせる時間を作る必要がある。また、時間の確保が難しいが、地名・人名などの基本的な知識について小テストを行うなどして、繰り返しの定着を図っていく必要がある。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>数学の授業に関して、興味を持って授業に取り組んでいる。北区基礎基本調査の結果から小学校の算数の理解も目標値を上回る項目が多い。一方で数学の理解度に関し、理解の早い生徒とゆっくりな生徒と大きく二極化している。小学校の算数を苦手としていることが原因と考えられる。授業の進め方などに工夫が必要である。</p>	<p>北区基礎基本調査より、思考・判断する力が身につけていることがわかる。その力を生かし、授業の形式としては既習の内容を利用し、生徒が自ら考え結論を導き出す授業を心掛けていく。また、なるべく教員が教えるのではなく、生徒が発表したり、互いに教え合ったりなどの時間を多くとりながら学習を進めていく。</p>	<p>定着に関しては毎回の授業で宿題を出し、チェックし、小テストを行う。理解ができていない生徒に関しては放課後などを利用し、指導を行う。また、学力パワーアップ講師と協力し、理解の進んでいない生徒を個別に指導していく。</p>
2年	<p>数学に対して得意、不得意の意識が学力差につながってきている。毎時間の授業の中で全員が取り組める内容を取り入れる必要がある。また、興味関心を持てるような教材の開発と授業展開が必要である。特に、苦手意識の強い生徒や理解の遅い生徒については個別指導の機会を作り出したり、授業の中での配慮の工夫が必要である。</p>	<p>毎時間の授業の中で小テストをできるだけ取り入れ、計算力の向上、定着を図る。また、引き続き、課題解決型の授業に可能な範囲で取り組み、生徒同士で考えを発表し合い、解決に導かせたい。その中で達成感、成就感を高め、数学に対する興味関心を深めさせたい。問題解決にあたっては隣同士、グループ毎、クラス全体で考えるなどグループの規模を考え、発表の力、表現する力、聞く力の向上も考え、工夫する。</p>	<p>全体の授業の中では学力パワーアップ講師との連携を図り、授業内で個別指導の必要な生徒の対応をとる。また、単元の系統性を説明し、発展的な内容も取り入れていく。放課後の補充として、スクラムサポート講師との連携を深め、出欠席や理解度を共通理解し、学習効果を上げる。長期休業の課題を検討し、学力の定着を図る。また、「数学レポート」を課題にして、各自の力に応じて考え、数学的な事象への気付きや興味を持たせる機会とさせたい。</p>
3年	<p>学力差がかなり大きくなっている中で、基礎の定着と思考力・表現力の向上に取り組まなければならない。そのために、生徒一人一人にじっくりと課題に取り組ませながら、生徒の考えや解答を活用した授業展開を考え、実践していく必要がある。</p>	<p>基礎的な計算力向上については、授業内での演習の時間をより確保するよう努めるとともに、できるだけ一人一人の生徒に解答を板書させる等の時間をとり、個別指導を図りながら全体に注意事項を再確認する時間を設ける。 また、授業開始時に小テストを実施し、既習事項の知識定着を図る。その上で、問題解決学習をできるだけ取り入れながら、生徒同士が考え方や解法を話し合う時間を作り、表現力と意欲の向上を目指す。</p>	<p>現在の授業で学んでいることとは別の既習事項についての教材にも取り組ませ、中長期的な知識の定着と計算力向上を図る。その際、1・2年の学習内容をランダムに提示するとともに、発展的な内容も取り入れていく。 また、スクラムサポート講師との連携をより深め、情報交換し、補充学習を進めていく。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>理科が得意な生徒と苦手な生徒に分かれている。一人一人が、理科に対して苦手意識を持っている生徒でも興味を持ち、積極的に学習できるように授業の工夫を行っていく。また、科学的に考える事が苦手な傾向にある。そのため、授業の中で生徒が、筋道立てて考えられるように工夫する必要がある。「なぜそうなるのか」、「どうしてそうなるのか」を結果から考えられるようにしていきたい。 小学校段階の知識は、備わっている。課題を工夫し、より高次元の知識が身に付くような指導を目指す。</p>	<p>生徒の興味・関心を引きつけるための教材の工夫を行う。例えば、植物体を実際に見せたり、実験を多く取り入れていく。実際に、見せることができない場合は、ICT教材を活用していく。 科学的な思考・表現を高めるために、実験の授業では、仮説、実験、結果、考察の手順で考えるよう指導して行く。</p>	<p>課題を与え、課題について生徒自身が実験方法を考え、実験を行い、解決させる。 単元ごとに、小テストを行い、知識の定着を図り、できなかった部分を復習させる。</p>
2年	<p>学力格差が大きく、学習する姿勢そもそもが身につけていない生徒が少なからずいる。全体の傾向としては、グラフの読み取り、計算などが苦手な生徒が多く、指導の工夫が必要である、</p>	<p>理解が進んでいる生徒をリーダーとする小集団学習を取り入れた授業形態を進める。特にグラフや計算、作図、数量的な内容を含む分野では、基本問題を繰り返し行いその中でグループ学習も取り入れていく。科学的な思考を高めるために、相互の意見交流で考えを深めさせるようにしたい。</p>	<p>基礎～応用的な内容をまとめのテストで取り入れていく。余裕があるときは授業で思考を深める課題を取り込み、考えさせるようにする。長期の休みで基礎～応用的な内容を盛り込んだ課題を出す。</p>
3年	<p>基礎・基本の定着の観点で見ると、定着している生徒としていない生徒では大きく学力に差が表れている。授業での積極性や思考して課題に取り組む姿勢が見られなくなっている。とくに計算やグラフなどで結果をまとめる行程に対して苦手意識をもっている生徒が多く、そういった生徒の基礎力定着のためにも繰り返し演習等を行うことが大切になっている。</p>	<p>基礎の定着化を図るために、少人数グループを形成させ生徒同士が教え合い理解を深めていく授業形態を取っていく。また言語活動を充実させるという意味でも、少人数グループで学び合ったことを全体の場で発表し、すべての生徒に共通理解をさせていくことを積極的に行っていく。</p>	<p>単元の定着率を把握するため、ミニテストを行った後、レポートを書かせるなど学習したことを再確認させる機会をつくる。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）

東京都北区立王子桜中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<p>生徒一人一人が積極的に授業に参加できるように工夫し生徒の関心・意欲を高める必要がある。発話への積極性をさらに育てると共に、文字を使って、書くこと・読むことへ発展的につなげていく指導をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話す力を伸ばすため、コミュニケーション活動を継続的に行い、ALTとの授業も活用する。 ・ワークシートやノート等を活用し、文字や文章の表現力を伸ばす。 ・文法・文章の理解・定着のため、繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、単元テストによるフィードバックを行い、必要に応じて再テスト等を行う。 ・補助資料を作成し、生徒の言語活動の定着・発展を図る。
2年	<p>全体的に区の平均正答率を上回り、良い成果を上げていることが分かる。特に「リスニング」、「語形・語法の知識理解」、「様々な英文の読み取り」、「3文以上の英作文」に関しては区の平均を大きく上回っている。これはコミュニケーションを重視し、ペア等でパターンプラクティスを繰り返し実施してきた成果と思われる。ただし、「語彙の知識・理解」、「長文の読み取り」、「場面に応じて書く英作文」が若干、区の平均を下回っている。4技能の中でもさらに細かく目標を設定し指導をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の知識・理解を強化するために、現在行っている語彙の口頭での確認に加え筆記での確認の頻度を高め、繰り返し語彙に触れる機会を確保する。 ・短文は読み取れるが「長文の読み取り」ができていないため、多読の機会を確保し長文に慣れ親しませる。 ・場面に応じて書く英作文が書けるように、英文を提示しそれが話されている場所や状況を推測させる訓練や語順の指導により自分の意見を正しく伝える力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙テストを頻繁に実施。 ・授業中の帯活動としての語順を意識した英作文の実施。 ・生徒のレベルに応じた多読の実施。
3年	<p>書く能力においては、場面に応じて書く英作文、正しい語順で書く英作文が書けるような工夫が必要である。知識・理解については、苦手な分野の文法の復習が必要である。読み取る力については、英文と資料の情報・条件をもとに、相手の意向に適切に応じられること、長文の内容に関する質問に英語で答えることができるようにすることが必要である。</p>	<p>英作文については、さまざまな場面において書く練習を積み重ねると同時に、正しい語順で書けるように指導していく。知識・理解については2年の文法の復習をして、問題演習を行う。読み取る力については、いろいろな長文を読ませ、質問に適切に答えられるように、細やかな指導をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習をして、できなかったところを復習させて、定着させる。 ・補助問題を作成して、練習を行う。 ・発展問題にも取り組ませる。